民主香川
定価　月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町3丁目13－14
☎(087)834-7311

新年号
12月第4週、1月第1週の合併号

参議院選挙での躍進を

日本共産党香川県委員会
委員長　中谷　浩一

あけましておめでとうございます。昨年は読者のみなさんには大変お世話になりました。

総選挙で少数与党となった国会では、政府は維新の会や国民民主党をだきこんで何とか補正予算を通しました。補正予算は、軍拡のための8千億円や、軍需産業向けの半導体をつくる特定企業への1兆円の補助など、「2つの猛毒」が含まれるものでした。これに正面から立ち向かい、組み替え動議を出してたたかったのは日本共産党だけでした。

日本共産党がきっぱりと自公政府にたちむかえるのは、アメリカや大企業言いなりの政治を変える展望（綱領）をもっているからです。

香川県でも12月県議会では、選択的夫婦別姓に逆行する自民党の意見書提出を断念させるなど「新しい政治プロセス」の流れが生まれています。

ことしは参院選挙です。自公政治を変えるためには、参議院でも与党を少数に追い込むとともに、とりわけ白川よう子さんをふくむ5人の比例候補を国会へ送り、日本共産党躍進の流れをつくることが必要です。

また4月の丸亀市議選挙は1から2へと議席増をめざすたたかいです。必ず勝利して参院選挙への弾みをつけたいと思います。

私たちは選挙に勝利し未来を切り開くために、大いにたたかいをすすめながら、党の自力づくりに全力をあげます。今年もみなさんのお力添えをよろしくお願いします。

願いたずさえ国会へ

日本共産党参議院比例予定候補　白川よう子

新年おめでとうございます。みなさま如何お過ごしでしょうか。総選挙では自民・公明政権に対して国民が歴史的審判をくだしました。今度の参議院選挙では日本共産党の躍進を必ず勝ちとり、はじまったばかりの新しい政治のプロセスを国民が主人公の政治へと前に進めるために、比例の候補として全力でのぞむ決意をしています。

中国・四国・九州・沖縄は米軍基地被害や被爆地、原発など大きな課題を抱えた地域です。加えて物価や学費の高騰、年金・福祉の後退など解決すべき問題も山積しています。皆さんのもとにお伺いし、要求の実現に力を合わせます。

私の原点である「生きること 幸せになることを あきらめなくていい社会」をつくりたいとの思いを大切に、安心して暮らせる社会の実現へと頑張り抜きます。

手を繋ぐ皆さんとの輪をさらに大きくし、必ず国会へと駆けあがります。皆さんが日本共産党の躍進にさらなるお力添えをいただけますことを心からお願いいたします。

太鼓台

素晴らしいテレビドラマに去年は出会えました。

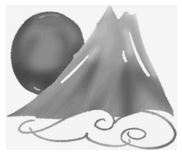
まず「虎に翼」。主人公の虎子は「法相の世界に初めて飛び込んだ女性」です。「はて？」と世の中の不公正、不平等などの不条理に異議申立てをし、生き方は自分で決めるという姿勢を果敢に貫きました。虎子が「日本国憲法」を目にするところから始まり、何度も視聴者の目に触れる。ある意味、弁護士事務所の壁にかけられた憲法14条（法の下の平等）はもう一つの主役。原爆裁判もドラマでは初。作品で描かれた差別に今の自分を重ねて観る方も多かったのでは。

次に「宙わたる教室」。優秀な科学者が学会のあり方に絶望して定時制高校の教師に。年齢も国籍もかかえる困難も異なる生徒たちが、科学に目覚め、新たな一歩を踏み出します。「人間はいつからでも生き直せる」というメッセージ性を感じました。

今年も、世の中の不条理を正面から描き、生きることの素晴らしさを感じるドラマの放送を願います。（こ）

謹賀新年

二〇二五年　元旦　民主香川社



【3面から】　国家賠償要求同盟香川県本部事務局長が連帯のあいさつ。中谷県委員長は冤罪事件や弾圧とたたかう救援会の役割を強調。「国会では与党が少数となり、国民的なたたかいを前進する条件が生まれた。国民の新しい動きを次のステージへ高めるために、来年の参議院選挙で共産党を躍進させたい」とのべました。

藤田事務局長から議案提案があり、この一年間の主な活動報告と運動方針の提案がありました。

討論では、三木町議会での意見書採択の経過報告があり、引き続き他の自治体での採択の運動強化が確認されました。

また、岡山・倉敷民商弾圧事件は禰屋さんに対する冤罪であり、無罪判決を求める署名が35万へあと7千筆に迫っており、更なる支援が訴えられました。

菊池寛記念館　文芸講座のお知らせ

テーマ：高松が舞台になった村上春樹
「海辺のカフカ」をどう読むか
講　師：文学研究者　落合貞夫氏
と　き：1月11日(土)13:30～15:00
場　所：サンクリスタル高松3階　第一集会室
先着60名様

《講座内容》　『海辺のカフカ』（2002）は世界幻想文学大賞を受賞した世界文学です。村上春樹はなぜ「高松」を舞台にしたのでしょうか？それは作品のテーマにとって重要な意味があるはずです。講座に参加された皆さんと共に考えてみたいと思います。

これからの社会保障を考える
高齢化、人口減少、そして「大軍拡」の流れの中で ⑲

社会保障のあり方について考える会　準備会　藤井　明

国家が経済過程に介入しなければならなくなったと言う事情の下で体系化されて行った社会保障ですが、今回は、社会保障のその「経済政策」としての側面について考えてみたいと思います。

4）所得の再分配、そして景気循環の緩和

国家独占資本主義の時代に、「資本主義の枠内での労働者・国民に対する一定の譲歩」として整備されて行った社会保障でしたが、それは同時に労働法制や税制とともに「所得の再分配」を行うことによって貧富の差を緩和し、格差や階層の固定化とそれに伴う社会の硬直化を阻止すると言う役割も果たしました。社会保障は、一定の社会的な公平を実現することによって、経済社会に活力をもたらすものとして支配層に採用された「政策」でもあったのです。

また、「経済循環」を緩和するためのビルトインスタビライザー（経済構造に組み込まれた安定装置）としての側面も無視できません。例えば、年金や医療・福祉、そして失業給付などは、多少なりとも国民の懐を温めることによって国内の需要を下支えし、「不況」の深刻化など「景気循環」の過度の振幅を防ぐと言う役割を果たしていて、独占段階の資本主義経済を支える機能を持っています。累進性の高い所得税が、好況期の税収増によって景気の過熱を抑制したり不況期の税収減に備えたりするのと同じように、社会保障もまた、そうした経済的な役割を果たしているのです。そしてそれは、持続的な高度経済成長の要因の一つとなり、福祉国家の経済的基礎もこれによって築かれました。